

200歳万歳!

200歳まで生きる会 H十九年四月第十一号

記憶について

歳を取って困るのは、記憶力が失われていくことです。ひどい場合には認知症になって家族の顔も見分けられない、おしっこも垂れ流しという極端に困った症状を呈することもあります。これをどうしたらよいのでしょうか。脳医学を臨床現場から考えておられる医学博士の茨城キリスト教大学教授、板倉弘重先生は、「脳をきちんと健康な状態に保ち、その働きを最大限にすることが大切」と述べておられ、初期の認知症の予防や治療に、記憶コリンがよいとおっしゃっておられます。

記憶コリンというのは脳の働きを活性化するサプリメントなのです。記憶コリンは記憶力を著しくアップするというので、全国の学習塾で生徒たちに勧めたり、進学率が目覚しく向上したというので評判になったり、成人の間でも記憶力が減退した人たちが記憶コリンを摂るようにしたところ、記憶力減退が止まるだけでなく、素晴らしい記憶力に変わって、資格試験に役立ったなどの報告をよく聞きます。

歳を召した方たちの間でも評判なのです。一例をあげましょう。七三歳の女性K・Mさんのレポートです。――最近私は物忘れが目立つようになり、物を取りに行ったはずが、何を取りに行ったのか分からなくなることが多くなりました。「七田式教育法」で有名な七田眞先生のお話では、八〇代で経理の仕事をして

いる女性もいるそうです。私は今、歳七三歳になりますが、九〇歳まで現役を維持しなければならぬ、ある役目を負っています。それを実現するにはもう「学習記憶コリン」しかない、評判のサプリメントを取り寄せて飲み始めるようになりました。

すぐに効くわけではないと思いますが、その実ひそかに効果を楽しみにしていたのですが、案の定一か月目くらいから、頭がはつきりとしてきました。数字もきちんと記憶することができるようになり、何だか勇気がわいてきました。

私はあるグループの責任者として、度々発表する機会があるのですが、これまでは用意した原稿を読み上げていたのが、二日くらい練習すれば、原稿の内容をすっかり覚えることができるのです。すらすらと発表するのを見て、周りの人は驚いています。実は自分でもびっくりしています。これも「学習記憶コリン」のお陰と感謝しています。

これからもしつかりと飲み続け、本当に九〇歳まで現役で頑張れるようにしたいと思います。

次は、三一歳の女性の方の報告です。

――病院勤務の私は、最近よく物忘れがひどくなり、内心悩んでおりました。医療の仕事はミスが許されません。なんとか六五歳までは勤めたいと思っていたのですが、記憶力減退で仕事に支障が出るようになれば、それも難しくなります。

そんなとき私は知人から、「記憶コリン」について書かれた本をいただき、読んでみることにしたのです。読後も、まさかサプリメントで頭がよくなるなんてことはあるはずがないと思ったのですが、「信じるものは救われる」という言葉を思い出し、思い切って注文の電話をしました。

届いた「学習・記憶 記憶コリン」を一日四錠ずつ飲み始めたのですが、一週間程度でなんとなくよ

さそうに思えてきたので、一か月経つと一日六錠に増やしてみました。

すると本当に頭が冴える実感がわいてきたのです。仕事のほうも、最近ではきばきと、まるで若い頃のように頭が動きます。あれほど悩まされていた物忘れもほとんどなくなりました。

これで、生きている間ははずっとボケずに元気で生活できるのでは、と思いつつとボケずに元気でいます。何となく体調も良くなり、体も元気になった気がします。本当に「学習・記憶 記憶コリン」を飲んでよかったと思います。

脳の若さを保ちたいと思う方々へのお勧めです。

記憶コリンの申し込み先

千六九五〇〇一七

島根県江津市和木町四六四一

一人ひとり成功支援塾

斉藤 健二

TEL..〇八五五―五三一―三二八二



七田 眞(しちだ まこと)

1929年生まれ。島根県出身。教育学博士。心理学博士。USアカデミー・アカデミシャン。日本文化振興会副会長、日本サイ科学会顧問。七田チャイルドアカデミー校長。しちだ・教育研究所会長。現在、七田式幼児教育を実践している教室が全国で約450教室を数え、アメリカ、韓国、台湾、シンガポール、マレーシアにも七田式教育論が広がっている。

特集記事

気について学ぶ

一、意識はエネルギー

この世は、固体と液体と気体の他にプラズマ(宇宙エネルギー)というものから成り立っている、とはロシアの科学者イニューシンの言葉です。宇宙には目に見えない宇宙エネルギーというものが充滿していて、宇宙エネルギーが宇宙の本質なのです。

人間とは生命であるということができませんが、生命はエネルギーであるとも言えるでしょう。このエネルギーとは宇宙エネルギーに他なりません。

人間の意識には、この宇宙エネルギーを自由に使いこなす機能が組み込まれているのです。意識には顕在意識と潜在意識とがあつて、宇宙エネルギーを使いこなすのは、顕在意識ではなく潜在意識です。潜在意識に刻み込まれた思いが意識を形作っているのです。

この潜在意識にどういう思いを刻み込むかで、宇宙エネルギーを使いこなすことができますよ

うになります。そのためのトレーニングを波動共鳴の技法と言います。波動共鳴の技法とは、宇宙の波動に共鳴する方法を学ぶことです。そして宇宙の波動というのは、気のことです。宇宙エネルギー＝波動＝気なのです。

気という考えは、実は新しい考えではなく中国五〇〇〇年の昔からある考えです。中国医学には、「身体をめぐる気の渋滞が病を生じる原因であり、『気』を絶えず正常に流通させておくことが大切である」と考える養生思想があつて、それが中国医学の根本的特徴です。これは病にかかる前に、身体を整えておくことが大切という医療観で、この考えが道教の中心にあるのです。

宇宙エネルギーとか気というものは目に見えないものなので、科学はこれを研究の対象とはしていませんでした。けれども二〇世紀の今は、この気についての理解が問われている時代です。気とか宇宙エネルギーとかがこの世を成り立たせている実態だとしたら、どういう物理的、化学的実態なのかと現代科学は問題を突きつけられているのです。

そこで、一九九〇年七月、日本人体科学会が設立され、一九九一年一月には第一回年次大会が開かれました。これに対して、古い

科学観(目に見えないものは信じない古典力学)を信奉して、そこから離れない自然科学の学者たちは、「そういうのは観念の産物に過ぎない」と今も全面的に否定しています。

中国では一番古い医学の古典・黄帝内経素問の首巻『上古天真論』に養生の道として次の文があります。「余は聞く。上古に真人なるものがあつて、天地の変化にかない、陰陽の変化を把握し、精気を呼吸し、他力によらないで精神を内に保ち、身体が変わらぬようにする。ゆえに真人は長寿によって天地において、滅びることがない。これはその道を体得しているからだ」

中国では古くから今まで、医療も養生術も共通の生命観あるいは、身体観に基づいていて、その第一は、気に対する観念です。気の調和した状態を健康な体と考えるのです。

養生術では、単に流れている気ではなく、人が自らの意思で気を流すと考えるところに焦点があります。

この観点が現代人には希薄なのです。

二、養心が大切

養生には養形と養心とがあります。養心の方がより高い価値を与えられています。これ

は当然でしょう。気を取り入れる形には幾通りもあって、千差万別といったところですが、養心は常に一つです。それは意識によって体内に気を取り入れ、気を巡らせることだからです。

「莊子」外篇の達生篇に次の説があります。

「世の人は養形すれば、生命を保てると思っているが、養形は果たして生命を保つのに足りない。（原文のママ）とすれば、世の人はどうして足りるとするのか」

形ばかりいくら学び、そして実践しても、気を動かす養心がなければ、生命は保てないよ。それなのになぜ、形ばかり追い求めるのかと言っているのです。大切なのは意識で、生命エネルギーを動かすことを学ぶことなのに、導引という形にとらわれていてはだめだと莊子は批判しているのです。身体の外にある気を体内に取り入れる時、耳や心の働きを研ぎ澄ますだけではだめだ、身体、特に心に充滿している気で聴くようにせよ。内気と外気は本来同調するものだ。どう同調するのか。虚無の状態にすると良いのだよと説いているのです。

心を無にすることが大切なのです。その境地を莊子は「恬淡寂寞、虚無無為」と説いています。ただ道は虚するに集まる。虚すると

は心齋なり、と説くのです。心齋とは天との合一、宇宙との合一の状態です。

三、愛の思いが大切なわけ

人間の本質は肉体ではなく生命です。人間の本質は生命であると思うようになると、波動が変わります。意識が変わり、エネルギーがプラスに変わります。エネルギーにはプラスもマイナスもなく、それを使う心の働きにプラスとマイナスがあるのです。心の働きがプラスに変わると、エネルギーはたちまちマイナスからプラスに変わります。だから心の思い、意識が大切なのです。

人間は瞑想をすると、空中から酸素以外のものを取り入れられるようになります。つまり、瞑想によって人が宇宙エネルギーを取り入れ、使いこなせるようになるのです。従って一日十分の瞑想が必要なのです。

人は正しい食事だけでは命を保つことはできないのです。意識が大切なのです。意識を変え、考え方、生き方を修正すると、健康長寿の道を歩み始めることができるようになります。瞑想をするとエネルギーが高まるのです。瞑想状態に入って、「我は道なり」とひたすら念じ続けるのが良いのです。

目に見えないものが理解できるようになると、自分が何者か分かるようになります。すると、気Ⅱ波動Ⅱエネルギーが高まり、病気は消えていきます。想念が人の行いや言葉を変えてしまいます。天と合一の境地になるので、心からの優しさや思いやりが出てきます。傷ついたり病んだりしている人に出会った、救ってあげたいといういたわりの気持ちが生じるのです。

人は生命であるという気持ちに徹すると、人はどんな人にも、どんな物にも優しくなり、愛する気持ちがわいて、万人を愛する気持ちになります。いたわり、思いやりの気持ちが生じ、すべてに対して謙虚になります。人に愛と幸せをあげることができるようになり、どんなことでも許せるようになります。そういう生き方が良いのです。

すると、その人の持つ波動はすっかりプラスになります。その人の見方、考え方が変わり、波動値が上がり、エネルギーが高まり、気が強くなるのです。それが周波数、エネルギーの振動数の法則なのです。これこそ波動共鳴の技法です。

意識が変わることによって、メンタル波動が出るようになります。メンタル波動は人

体のメンタル体から出てくるものです。人間は肉体、幽体（アストラル体）、霊体（メンタル体）からなっていて、メンタル波動が高まると自己治癒力が高まり、病の元を消し去ることができ、長寿の道を歩むことができるのです。

プラス一〇〇%の意識波動を持つように努めて、悪い想念がなくなると、心がきれいになり、波動値が高まります。

人に対するマイナスの思いはマイナスのホルモンを生じ、波動値を下げ、それが病状を作っていくのです。人がこの世で体験しているのは波動現象なのです。自分で心的波動を発して、それが脳内にマイナスのホルモンを発したり、プラスのホルモンを発している、現在の自分の状態を作り出しているのです。

メンタル波動を発している人は、愛のチャクラであるアナハタ・チャクラが開いているもので、心がきれいになると、細胞もきれいになり、善玉細胞が悪玉細胞に取って代わります。心の思いによって気がどんどん高まり、ホルモンを変え、細胞を変えて、がん細胞のような悪玉細胞はどんどん小さくなっていってしまうのです。

四、もつとも治癒力が高いのはモナド波動

モナドという言葉は最近よく聞くようになりましした。人間には一二の波動の段階があつて、最高の波動、もつとも受容力の高い波動をモナド波動と言います。

人はもともとエネルギーを発していて、人の周りにはエネルギーフィールドがあります。そのエネルギーフィールドの乱れが病を作っているのです。エネルギー波動を変えると波動が変わり、その人の持つ活力が変わり、健康が変わります。そこで波動の癒しこそが人間の活力と健康を回復させる元だと言われるのです。心の波動によって、人は自分のエネルギーフィールドを健康に共鳴させ、病のない生命を創造することができます。

メンタル波動こそ最大のヒーリングパワーなのです。メンタル波動によって人は自分の肉体を他の次元に移し変え、変容させることができるのです。

そこで今は、人が波動に目覚めなければいけない時代なのです。それも最高の波動、モナドの波動に目覚めることです。すると人は永遠の生命に向き合うことが可能になります。

長生き物語

昭和二三年に出された『長生きと若返り』という本があります。著者は吉田機司医学博士、発行所は不老閣。この本の始まりにこんなことが書いてあります。

「中国の東方朔は三万八〇〇〇年生きたといい、天皇氏、地皇氏はともに一万八〇〇〇歳、西洋でもノアは九五〇歳まで生き、アダムは九三〇歳、アダムの子のセツは九一二歳、セツの子エースは九〇五歳、その子カナインは九一〇歳と限りないが、日本では浦島太郎の三〇〇〇年を筆頭に、八百姫の八〇〇歳、彦炎出見尊の五八〇歳、武内宿禰の三〇七歳くらいがせいぜいのところである。」

そして「長寿家族と遺伝」という章には、次の話を書いてあります。

「長寿と遺伝の話の時、よく引き合いに出される例を二、三上げてみると、漁夫シンキンスというイギリスの有名な長寿者は、百六十九歳で死んだが、生存中、ある事件の証人

として裁判所に召喚されたとき、百二歳と百歳の二人の子どもを同伴したと言われている。

百三十三歳まで生きたシエルという人は、十九歳の時、第一の妻と結婚し、九十年間彼女と連れ添うていたが、子どもは二十九人で、彼の百三十一歳の時には、九人だけ生きており、長男は九十歳、曾孫は二百人以上に達した。百二十五歳の時に、第二の妻を迎え、また一人の子どもを得たそうで、子どもの多くは百歳近くまで生きたということである。

この例は夫婦そろっての長命と長寿家族の実例であるが、百二十五歳で生殖能力を発揮し得たという実例でもある。」

記録によって日本の例を一に上げると、三河の百姓満平は、百九十五歳、妻まちは百七十三歳、子萬右衛門は百五十三歳、孫久右衛門は百五歳であった。

因幡の国の百姓仙右衛門は、百八十三歳、妻きのは百七十一歳、倅佐右衛門は百三十一歳、その妻いさは百二十九歳、孫富右衛門は百三歳、その妻かねは百一歳で、当時の領主の松平因幡守より嘉賞を賜った。

文化五年三月五日には、奥州盛岡在の百姓清左衛門は百四十三歳、妻さんは百三十九歳、孫清蔵は百十二歳、妻せきは百九歳、孫清兵衛は九十二、妻ふじ八十九、曾孫清之助は七十、妻はなは六十八、玄孫清左衛門は四十一、妻さつは三十九であった。この五夫婦そろっての長寿はめでたきこととして、領主の南部大膳大夫より、青指十貫文を下賜されたとの記録もある。

また、信州上稲田村の百姓徳右衛門は百四十七、妻まきは百三十、娘まんは百歳であったという記録もある。

「白隠禅師の養生法」という章には次の記述が見えます。

昔から僧侶には長命者が多い。南山坊二百余歳、浅夢和尚百九十九歳、瓦屋能光(日向長興寺)百六十三歳、教待(山城円城寺)百六十二歳、清丹尼(大石良雄の娘)百四十四歳、沙門行春(大和高僧)百四十歳、慈眼大師(東叡山寛永寺開祖)百三十二歳、仁境(大和高僧)百二十七歳、輝山宗珠(三河高僧)百二十一歳、舜悦(武蔵高僧)百二十歳、全

珠(薩摩禅師)百十五歳、栄松(深川西光寺開山祖)百八歳、尊饒(松尾山の寺僧)百一歳。

これらはみんな坊さんで、粗食に甘んじた人たちです。

この本の著者は今では手に入りにくい記録を丹念に拾っています。お陰で長寿が夢ではないということが見えてくるのではないのでしょうか。

この本には、いろいろな不老長寿法が紹介してありますが、それはまたのことにしましょう。



健康情報

若返りにバイタルモーター21

バイタルモーターというのは、宇宙エネルギーを人体に導き入れる波動注入器です。バイタルモーターによって、背中からエネルギーを1時間照射してみた森田さんは、たった1時間で化粧のノリがよくなり、肌がこんなに変わるものかと驚きました。毎日四〇〇六〇分エネルギーを照射するだけで、若返ってしまうのです。バイタルモーターを使って若返りを体験した人の体験談を次に一、二紹介します。

ー私は若返りのカリスマと言われた、アメリカのイヴォンヌ・マーティンの伝記本を四〇五冊読みました。

さすが「若返りの女王」と言われる内容で、私は吸い込まれるように繰り返し読み、文章を空暗記できるほどまでになっていました。

しかし、実際に実行してみると、イメー

ジの作り方、ピンクの呼吸法というものは意外と難しいものでした。その点、西海先生が開発された「若返り術」は簡単に実感でき、想像以上に早く結果が出ました。私が「バイタルモーター21」を購入した時、主人は少し小馬鹿にしたような顔で、「ママ、もう無理だよ」と子どもたちと笑っていました。

しかし、今では肌がツヤツヤになり小じわがなくなった私を見て、主人はいぶかしげな顔をしているのです。そして、自分の若い頃の写真を持ってきては、私のそばでいかに自分が昔イケメンだったかを話しながら『バイタルモーター21』って、ばかにできないな』などと言っています。

ー去年、私はアメリカのイヴォンヌ系若返りセミナーに参加しました。帰国すると、日本では西海先生が「西海式若返り法」を発表されていました。それから数か月もたたないのに、さらに、もっと素早い方法が発表されたなんて驚きです。

「氣」を魔法のように操る西海先生には感

激させられてしまいます。二一世紀という時代は、思いを道具で達成させてくれるんですね。ご近所の方が私を見て驚いています。

アメリカのイヴォンヌ・マーティンさんは、若返りの女王と言われています。彼女は五〇歳の頃のある日、鏡を見て自分があまりにも老けて見えることに愕然としました。鏡の中に写っている自分は、どう見ても六〇歳以上の女性に見えるのです。ここから若返りを決意し、いろいろ勉強した末に、ピンクのエネルギーを吸い込むイメージ法を考え出し、それを毎日熱心に実践することで、九か月後には何と、どこから見ても三〇代の美女に見えると言われるくらい若返ってしまったのです。

その体験を本に書き、それを知った人々にセミナーをするようになっていのです。

バイタルモーター21は若返りに役立つだけではありません。頭に照射すると、頭痛、不眠症、精神不安定なども消してしまいます。

七〇代の女性は、数年来の頭痛、不眠症、

精神不安定で、石川県のオルゴン治療所に来院されました。全国に西海先生の波動治療器オルゴンを使ったクリニックがあるのです。

クリニックでバイタルモーター21をこのご婦人に当てながら、三〇〜四〇代の頃の自分をイメージしてもらいました。照射すること四〇分。ヒーリングの後に、ベッドから起き上がると背筋がしゃんと伸びて、来られた時とは全く違っていたのです。顔はピンク色になり六〇歳くらいに見えました。ご本人は心身ともにリフレッシュされ頭痛も消えてしまったとのこと。若返ったことにびっくりして帰っていかれました。

良書推薦コーナー

『病気を治す飲水法』

バトマンゲリジ著／中央アート出版

博士は、イラン生まれの医師で、イギリスの大学で医学を学び、医師の資格を得ました。祖国に戻り、各地に診療所を作る仕事に従事した頃に、イラン革命が勃発し、政治犯収容所で病人の世話をするようになったのです。

薬が満足に手に入らない収容所で、重い胃潰瘍の患者に水を飲ませただけで痛みが消えたのに、非常な驚きを感じます。医師としていろいろな人種の場に接してきて、そのようなことは初めての体験でした。

博士はこの出来事を機に、三年間に延べ三〇

〇〇人を超える患者に、薬のかわりに水を処方し、痛みを消して治癒させることに成功しました。この予想もしない経験に医療の重要な突破口を見出し、アメリカで本格的の研究に入ったのです。

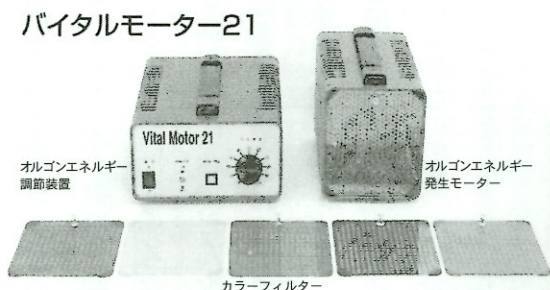
博士は自分の研究を元に、全米医師会と国立衛生研究所に働きかけをしましたが、2つの機関は博士の提案を受け入れようとしませんでした。医師会に望みを捨てた博士は、自費で財団から機関紙を発行し、著書も次々に出してアメリカ国民に直接訴えかけることにしました。

博士の本は、わずか一〇年で一〇〇万部を超えるベストセラーになり、全世界に水を飲むブームを巻き起こしました。

博士の言うところを聞きましよう。

体の痛みは水不足の信号。頭痛には水を飲め。胃痛も水不足。便秘も、胸やけも水不足。胃痛患者は水だけで治療が出来る。制酸剤は摂るな。アルミニウムが含まれていてポケる。アルツハイマーの原因は体の慢性水不足と脳細胞の水不足。水不足が長引けば、脳細胞は萎縮し始める。

アルツハイマーの患者に水を飲ませると記憶を取り戻す。盲腸の痛みもコップ一杯の水で解消する。過食症は水不足の信号。十分水を摂り、食事内に水を飲めば解消する。喘息は水と塩で治せ。



人間の体は水の代謝によって動いているのです。体の水の代謝が乱れると、水の供給と制御にからむ機能が乱れてきて、体にいろいろな信号が出てくる。それが病気です。体のどんな働きも、十分な水の量によって調整され、関連づけられているのです。水を飲むことが人体に必要な分子（ホルモンや伝令化学物質）を生命維持機関に届ける唯一の方法なのです。水不足でその伝達はうまくいかないと博士は説くのです。

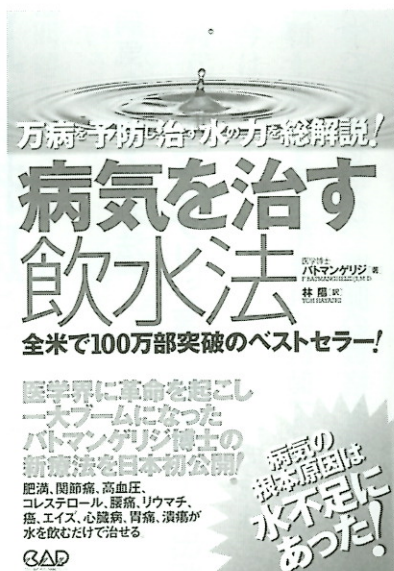
人体の神経細胞の制御役である神経伝達系は、体に必要な水がめぐっている限り活発に働きます。ところが薬を取ることは、その働きをブロックすることになります。そのことを理解し、薬を飲むよりも飲む水の量を増やして目的を達するべきだと博士は言います。

でも一般に、人は水が病気を治すことなどあり得ないと考えて、水不足からくる多くの異なる病気に、サプリメントや薬をもって予防したり治療したりすることに一生懸命になります。病気を水で治すという考えには耳を傾けようとはしません。ではなぜ瀕死の病人にリンゲル注射をするのでしょうか。リンゲル液の主成

分は塩で、まさに命の火が尽きようとする重病人が、塩を主成分とした溶液によって救われるのです。

減塩を続けるほど人は病気になります。ただし、化学塩は摂らないようにしましょう。天然の海水塩がよいのです。肌力サカサ、傷の治りが遅いと言うのは、塩分が不足しているからです。老化も水不足、塩不足によって起こります。

飲む水の量だけ増やして塩を摂らずにいれば、体内から塩分が失われることに注意しましょう。水二リットルにつき、茶さじ半分の塩を摂ることを忘れないようにしましょう。



会員様からのお言葉

平成十八年十二月第七号をお送りくださってありがとうございました。

一、長岡喜法先生の「無」の心境について深く感銘しました。私も八三歳です。

しかし、まだまだよく納得できないところもあります。熟考したいと思います。

○年長者の脳機能について

○老齡者ほど両脳をよく発達させているジョンソンの四つのポイントの秘訣

○ごしんじょうの話

参考になりました。

K・Mさん

編集後記

三月二一日、東京銀座三笠会館で「二〇〇歳まで生きる会 第一回親睦会」が開かれました。出席者は五〇名。初めて出会う人たち、みんなが心を開いて、にこやかに交歓しました。とても楽しい会でした。

毎月お役に立つ情報をお届けしたいと願っています。会報を読まれた感想を、どしどしお寄せください。

(S)

【発行人】

七田 眞

【発行所】

「200歳まで生きる会」

〒695-0011 島根県江津市江津町527-5

☎0855-52-5301

FAX 0855-52-5797